

論壇

不適切な救急車の利用

「ただほど怖いものはない」という表現がある。無料だと思って気軽にサービスを受けたり、商品を受け取ったりすると、後で思わぬ費用を払わされることになる、というような意味だろう。

そうした通常の意味と少し異なつた意味となるかもしれないが、世の中には「ただ」あるいは「低料金」がもたらす弊害は少なくない。消費者の意識としては、価格や料金は安い方がよいと考えがちだが、適正な料金を課すというのにも必要だろう。

たとえば、救急車がその例かも

伊藤 元重 機構大教授 発東大 研究・ 総合事務 理事

しれない。テレビなどの報道をみると、一般常識からみれば不適切とも思われる救急車利用のケースがみられるようだ。公共交通機関で移動できるような人が、病院に行くためにタクシー代わりに救急車を呼ぶというような事例が紹介されていた。こうしたケース

「ただほど怖いものは…」

が増えれば、本当に救急車を必要とする人の利用が阻害されかねない。

確かにタクシーなら料金を払わされるが、救急車なら無料だ。こうした不適切な事例がどれだけあるか分からないが、救急車が料金を徴収すればこうした問題は起こりにくくなるはずだ。救急車は無

料というのが社会常識のようになっていて、救急車が無料ではなくてはいけないという理由は特にない。高齢者、障害者、低所得者の方々など、救急車の料金を徴収すべきでないという人には、払い戻し制度を設けたり救急車利用カードを提供すればよい。

料というものが社会常識のようになっていて、救急車が無料ではなくてはいけないという理由は特にない。高齢者、障害者、低所得者の方々など、救急車の料金を徴収すべきでないという人には、払い戻し制度を設けたり救急車利用カードを提供すればよい。

電気料金でも同じような面がある。原発が停止して、電力のやりくりが大変だ。旧式の火力発電まで総動員しているが、それは燃費効率も悪いし、温暖化ガスの発生要因ともなる。真夏や真冬のピークの電力需要を少しでも減らせば、発電容量を増やさなくても済む面がある。電力料金をこうした節電に利用しない理由はない。

家庭の電気メーターがスマートメーターに替わり、どの時間にもだけの電気を利用したのか、きめ細やかに利用状況が分かるようになる。それで、ピーク時の電力料金を大幅に引き上げ、それ以外の時間帯の電力料金をこれも大幅に下げるといふ対応が可能となる。こうした料金調整によって、ピーク時の電力利用を減らすことができるはずだ。

弊害の事例いくらでも

「ただ」がもたらす弊害の事例は私たちの周辺にいくらでもあふれている。ホテルに宿泊すると、最近の世界中どこでも朝食はビュッフェスタイルだ。一定額の料金で、後はいろいろな料理が取り放題である。どうしてもいろいろな料理を多めに取ってしまう。朝食がただというわけではないが、定額料金であるので、いくら余分に取るうと、その「余分」の部分はただというわけだ。

体重やコレステロールなどに気を付けなければならぬ年齢の者にとつては、余分に食べることは極力避けるべきだが、「ただ」だといふ取りすぎしてしまう。人間とは卑しいものだ。自分の健康とついでに大切なことを忘れて、つい目先の「ただ」の料理を取ってしまうのだ。もし一品一品の料理に全て追加料金が付くような仕組みだったら、こんなに余分に食べることはないので、いつも後悔する。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。